

ユニセフ 活動の成果 2024

unicef
for every child



表紙：

余暇に編み物を楽しむ11歳の
ヴァンコ・クリステラ・イラコゼさん

ルワンダ、2024年12月

© UNICEF/UNI725194/Iyakaremye

ユニセフ 活動の成果

2024

目次

1:

目標分野

目標分野1	
すべての子どもが命を守られ、健全に発育すること	10
目標分野2	
すべての子どもが学ぶ機会を得ること	12
目標分野3	
すべての子どもが暴力や搾取から守られること	14
目標分野4	
すべての子どもが安全で衛生的な環境で暮らすこと	16
目標分野5	
すべての子どもが人生において公平な機会を得ること	18
人道支援	20

2:

変革戦略

変革を実現するためのアドボカシー（政策提言）と広報活動	22
不可欠な物資を支えるグローバルネットワーク	23
若者の参加を推進する	24
地域社会の関与と社会・行動変容	25
ジェンダー平等の実現	25
イノベーションの活用	25

3:

財政

財政	26
----	----

はじめに	03
子どもたちに寄り添い、支援を届ける	05
2024年 ユニセフの活動における10の成果	07



若いユー・レポーターたちが、
ユニセフが支援するコートジボワール南部アビジャン・アニヤマの盲学校「マウント・カーメル」を訪れ、子どもたちと交流しました

コートジボワール、
2024年10月
©UNICEF/UNI668760/Dejongh



「世界子どもの日」に、コートジボワール南部アビジャンの国民議会に子どもたちが集まり、声を届けました

コートジボワール、
2024年11月20日
© UNICEF/UNI677394/

はじめに



キャサリン・ラッセル

ユニセフ事務局長

2024年は、世界の子どもたちにとって本当に厳しい一年でした。激化する紛争、気候変動の衝撃、そして貧困の中で、子どもたちの支援ニーズは急増しましたが、それに応えるための資源は減り続けました。

それでも、今年の年次報告が示すように、ユニセフは190を超える国と地域で活動し、最も支援が届きにくい場所においても、数百万の子どもたちの命を守り、生活を支えてきました。また、パートナーとともに、安全な水と衛生、子どもの保護と心のケア、保健、栄養、予防接種、教育や技能開発などのサービスを子どもたちに届け続けました。

2025年の世界も引き続き、大きな政治的変動と不安定性、経済の先行きの不透明さ、そして深刻化する人道危機に直面しています。こうした中でユニセフには、必要な支援を子どもたちに届けるために最善を尽くすことが求められています。

しかし今、すでに発表された資金削減や今後予想される削減により、私たちは支援を最も必要としている数百万の子どもたちに十分に手を差し伸べることができずにいます。こうした削減が、世界的な資金危機を引き起こし、さらに数百万の子どもたちの命を危険にさらそうとしています。

今日の世界はすべてがつながっています。どこかで支援が途絶えれば、世界全体の安全や経済の安定にも影響を及ぼしてしまうのです。

支援を必要とする人々は増え続けていますが、それに見合う資金は十分ではありません。だからこそ私たちは、託された貴重な資源を最大限に活かす責任を果たさなければなりません。常に業務や資源のあり方を見直し、より迅速かつ効率的に、多様な状況へ柔軟に対応できるよう、ユニセフは改善を重ねています。

例えば、子どもたちを取り巻く状況が急速に変化していることを把握し、意思決定者に情報を迅速に届けられるよう、AIなどの新しいツールを活用してデータや分析力を強化しました。支援が届きにくい子どもたちに効果的にアプローチできるよう、さらなるデジタル技術への投資も進めています。また、現地における政府、企業、NGOなどとのパートナーシップを深め、国の仕組みを強靭に強化しながら、業務の効率化を図ってきました。

人道支援や開発支援に投じられる資金は、長期的な利益を生み出し、より安定した安全な世界の基盤を築くことができる投資とも言えます。支援は、国境を越えた感染症の拡大を防ぎ、政情不安や暴力のリスクを軽減する役割を果たします。

予防接種、栄養、安全な水や基本的な衛生へのアクセスといった効果が実証済みの支援を世界規模で行うことで、今日も数百万の子どもたちの命が守られています。私たちとパートナーは、今日まで歴史的な前進を遂げてきました。2000年以降、世界の5歳未満児の死亡率は半分にまで減少。さらに何百万人もの子どもたちが、健康を守られ、より明るい未来を手にしています。

適切な政策選択と十分な投資がなければ、こうした努力は水泡に帰し、予防可能な原因で命を落とす子どもが数百万にものぼる危険があります。それを見過ごすわけにはいきません。

不確実で困難なこの時代に、私は現場で直接この目で、とりわけユニセフが子どもたちの権利と健やかな成長を守る確かな砦となっていることを見てきました。

世界規模の活動基盤と強力なパートナーシップを活かし、ユニセフは他ではなし得ないことを実現しています。危機には素早く対応しながら、将来に備えた強靭な仕組みを築いているのです。

創設以来約80年にわたって続けてきたように、ユニセフはこれからも世界中の子どもたちに寄り添い、支援を届け続ける決意です。そのためには皆さまのご支援が欠かせません。

ユニセフは、世界の子どもたちのためのご寄付を続けていただけるよう、すべてのご支援者の皆さまに對し、お願い申し上げます。いま、子どもたちを見捨てるわけにはいかないので。



ファトゥマさんは予防接種のために、ユニセフの移動保健センターまで、2時間近く歩いて子どもたちを連れてきました。肺炎、肝炎、ポリオ、ロタウイルスを防ぐ大切な接種です

子どもたちに 寄り添い、 支援を届ける

国の予算からほんのわずかな投資が、何百万もの人々の暮らしを変え、より安定し、より安全な世界の実現につながる——そんな未来を想像してみてください。これこそが、人道支援と開発支援の持つ力です。

この数十年で、世界は子どもたちのために目覚ましい進展を遂げてきました。2000年以降、世界の子どもの死亡率は50%以上減少し、発育阻害も4分の1以上減りました。2010年以降はHIV予防サービスの拡充により、HIVに感染する思春期の女の子の数も半減しています。さらに現在、出生登録される子どもが増え、教育や医療といったサービスを受けやすくなりました。今日、世界人口の半分以上が、少なくともひとつの社会的保護制度の恩恵を受けています。

この成果は、適切なリーダーシップとパートナーシップ、政策や資金的な後押しがあれば、私たちは子どもたちの生活を大きく、そして意味のあるかたちで改善できることを証明しています。

クイル州キクウィトでポリオの予防接種を受けるプロメディくん（3歳）。ユニセフはパートナーと協力し、この地域全体で大規模なポリオ予防接種キャンペーンを展開しています。地域のボランティアや保健員が中心的な役割を担い、支援の届きにくい人々にワクチンを届けています

コンゴ民主共和国、2024年12月5日

© UNICEF/UNI766163/Ndomba Mbikayi

ただし、進展の度合いにはばらつきが見られます。高所得国の子どもたちに比べて、低所得国の子どもたちは、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けてより迅速かつ集中的な取り組みが必要とされる国に住んでいる割合が7倍にも上ります。さらに、女の子、障がいのある子ども、移民、難民・避難民の子ども、先住民族の子ども、貧困家庭や支援が届きにくい地域・集団に暮らす子どもなど、あらゆる所得層において、今もなお取り残され続けている子どもたちがいます。

従来の支援国による援助予算の削減に加え、必要性にあわせて柔軟に活用できる資金の減少が続いていることで、ユニセフと国連のパートナーは、開発支援と人道支援の両面において、届けられるはずの支援を届けられずにいます。



ユニセフはすべての子どもの幸福を守るために尽力してきました。しかし、その比類ない活動範囲はいま、危機に直面しています。

- ユニセフは190以上の国と地域で活動し、高い専門性と強い使命感を持つ職員とパートナーによる広範なネットワークを基盤にしています。実績ある取り組みを柔軟に応用し、規模を拡大することで、世界各地の多様な課題に対応しています。
- またユニセフは、世界最大規模の人道支援物資倉庫を運営し、安全な水や衛生用品、教育、保健、栄養、さらには医薬品まで、必要不可欠な物資を備蓄しています。このような規模・到達力・専門性があるからこそ、私たちは命を救い、緊急事態が大規模な危機に発展するのを防ぐことができます。
- 世界の赤ちゃんの4人に1人が誕生する保健センターを、ユニセフは支援しています。

ユニセフは世界最大のワクチン購入機関であり、さらに「すぐに食べられる栄養治療食（RUTF）」の供給者として、重度の栄養不良に苦しむ子どもたちが治療を受けられるようにしています。

また、水、トイレ、衛生サービスの最大の提供機関でもあり、100を超える国と地域で3,500万人以上に安全な水を届けています。

皆さまの変わらぬご支援のもと、ユニセフはこれからも子どもたちに寄り添い、支援を続けていく決意です。

子どもの権利を守るために、 声を上げ行動するのは誰か。

— それは私たちです。



 **ユニセフの声：**
ユース・アドボケイト
(若者たちの代弁者)

「もし世界がすべての子どもを社会の一員として受け入れてくれたら、世界はもっときれいで、もっとのびのびとして、笑顔いっぱいの場所になると思います。まるで子どもたち自身のように。すべての子どもに同じ権利と機会があることをわかってもらいたいです。若者はみんな行動しよう。若者と子どもたちが、この世界の未来であり、地球を続けていく存在なんです」

パノスくん（13歳、ギリシャ）
© UNICEF/UNI487025/Pantelisav

2024年 ユニセフの 活動における 10の成果

人道支援

104カ国で発生した
448件の緊急事態において、
数百万人の子どもたちに
人道支援が届けられました



気候変動

気候関連プログラムは、
2022年の68カ国から
拡大し、**102カ国**で
実施されました



予防接種

ポリオワクチンは
87カ国で
15億回以上投与され、
2023年から2024年にかけて
世界全体のポリオ症例数を
約25%減少させる
一助となりました



栄養

5歳未満の子ども
2億5,100万人が
消耗症の早期発見
サービスを受け、
930万人が重度の消耗症や
その他の重度の
急性栄養不良の治療を
受けました



教育

学校に通っていない
子どもや青少年
2,600万人が
教育を受けられるように
なりました。そのうち
900万人は人道危機下に
ある子どもたちであり、
370万人は移動を強いられて
いる子どもたちです



気候変動



670万人が

気候変動に対応した
給水システムを利用しました
(2022年の540万人から
増加)



子育て支援プログラム



1,850万人の**保護者**や

養育者が、ユニセフの支援する
子育てプログラムを利用しました
(2022年の1,180万人から増加)



アドボカシー



110カ国において、
暴力を受けた**620万人**

の子どもたちが、

保健、ソーシャルワーク、
法的支援、または警察・
司法当局による支援を
受けました。これは
2023年から36%の
増加となります



水と衛生



1,800万人以上が

基本的な衛生施設を
利用できるようになり、
3,300万人以上が
安全な水に、そして
2,100万人以上が基本的な
手洗い設備にアクセス
できるようになりました

子どもの保護



91カ国が、
パートナーとの協力や
アドボカシーを通じて、
子どもへのより効果的な
投資を進めるための
支援を受けました
(2022年の78カ国から
増加)



1

目標分野

「ユニセフは、子どもの権利条約に基づく子どもの権利に関連する **5つの目標分野**において、長期的な成果を達成することを目指しています。これは、人道危機や脆弱な環境を含むあらゆる状況において、青少年を含むすべての子どもが、以下を確実に達成するためのものです：**(1)** すべての子どもが命を守られ、健全に発育すること **(2)** すべての子どもが学ぶ機会を得ること **(3)** すべての子どもが暴力や搾取から守られること **(4)** すべての子どもが安全で衛生的な環境で暮らすこと **(5)** すべての子どもが人生において公平な機会を得ること」

目標分野1

すべての子どもが命を守られ、 健全に発育すること

主要な成果

▶ 89カ国で3,560万件の出生が支援され、新生児期および小児期の疾病管理を通じて6,340万人の子どもが恩恵を受け、120万人の医療従事者が研修を受けました。

▶ 思春期の健康に関する取り組みは、2021年の27カ国から2024年には44カ国へと拡大し、970万人を超える思春期の子どもたちに支援を届けました。メンタルヘルスおよび心理社会的支援は、プライマリ・ヘルスケア（地域に根ざした包括的保健医療）、学校、デジタル・プラットフォームを通じて45カ国で提供され、530万人以上の子ども、若者、家族が恩恵を受けました。

▶ 5歳未満の子ども4億4,100万人が、発育阻害、消耗症、微量栄養素欠乏および肥満を予防するプログラムの恩恵を受け、930万人の子どもが重度の消耗症やその他の重度の急性栄養不良の治療を受けました。

▶ 28億回分のワクチンが99カ国に供給され、1億1,040万人の子どもが麻疹の予防接種を受け、そのうち2,460万人は緊急時に接種されました。2,500万人以上の思春期の女の子がHPVワクチンを接種し、17カ国で新しいマラリアワクチンが導入されました。

強制移住、気候変動、環境破壊、災害リスク、紛争、保健サービスへの不平等なアクセス、感染症の増加などが、世界中の子どもの生存と発達を脅かしています。ワクチンを1回も接種していない「ゼロ投与」の子どもの数は、2022年以降60万人増加し、合計で1,450万人に達しました。これは2019年と比べて170万人多い数字です。幼少期に十分で多様な栄養を摂取できない「食の貧困」は、5歳未満の子ども1億8,100万人と、約1億9,300万人の子どもに発育阻害や消耗症をもたらしています。

こうした課題に対処するため、ユニセフは2024年、プライマリ・ヘルスケア（地域に根ざした包括的保健医療）の強化と保健システムの整備に注力し、各国政府による医療サービスの対象拡大と人材育成を支援しました。

ユニセフの支援により、2021年の61カ国から拡大して、87カ国が幼少期の発達支援をプライマリ・ヘルスケアに統合し、130カ国で子どもの栄養および子どもの発達支援プログラムが実施されました。

2024年には、158カ国で目標分野1の下でプログラムが実施され、世界全体で総額24億米ドルが支出されました。そのうち7億米ドルは人道支援に充てられました。

子どもたちはポリオワクチンを接種したことを見せてください

マダガスカル、2024年5月15日

© UNICEF/UNI587855/Ramasomanana





アブダラくんは4歳のとき、重度の栄養不良に陥り動けなくなり、将来が不確かでした。しかし、ユネセフの「すぐに食べられる栄養治療食（RUTF）」のおかげで、現在は健康を取り戻し、就学の準備をしています。母親のハワ・アブドゥさんは深い感謝の気持ちを語ります。「アブダラの回復は奇跡です。私たちに未来への希望を与えてくれました」

カメルーン、2024年10月14日
©UNICEF/UNI663116/Beguel



目標分野2

すべての子どもが
学ぶ機会を得ること

主要な成果

▶ 学校に通っていない子ども 2,600 万人（人道危機の状況下にある 900 万人、移動中の子どもも 370 万人を含む）が教育を受けられるようになりました。教材は 1,750 万人の子どもに届けられ、そのうち 27% は危機的状況にある地域の子どもたちでした。

▶ 若者たちが地域社会の課題を発見し、自ら解決策を考え実行する力を育むユニセフのスキル開発プログラム「UPSHIFT」は、56 カ国に拡大し、210 万人の若者が参加しました。このうち 110 万人が全課程を修了し、修了証を取得しています。

▶ 1,800 万人以上の子どもが、教育用のデジタルサービスを通じて学びの機会を得ており、そのうち 1,000 万人は、ユニセフの「ラーニングパスポート」を利用しています。OpenAI と共同で開発した「だれもが使いやすいデジタル教科書」の取り組みでは、11 カ国の 200 万人の子どもに、63 言語に対応した言語にかかわらず利用できるデジタル教材が提供されました。

▶ ユネスコ、教育基金「Education Cannot Wait（教育を後回しにはできない）」、教育のためのグローバル・パートナーシップ（GPE）との協力により、子どもや若者が将来に向けて必要な力を身につける教育制度を導入する国の割合は、ほぼ倍増し 42% に達しました。ここでいう「必要な力」とは、学習能力や自分らしさを伸ばす力、環境を守る意識、社会に積極的に関わる姿勢、人とのつながりを築く力、職業能力、そして起業家精神を育むことなどが含まれています。

世界で 2 億 5,100 万人の子どもと若者が学校に通っていません。このうち半数はサハラ以南のアフリカに住み、また 33% は低所得国にいます。さらに、長期的な気候変動や異常気象事象によって、2024 年には少なくとも 2 億 4,200 万人の生徒が休校を余儀なくされました。

ユニセフの取り組みにより、子どもたちが質の高い学びに触れる機会が広がり、教育システムの改善が進みました。学習成果の向上とともに、教育分野におけるレジリエンス（回復力）も強化されています。

アブドラ・ナジの国内避難民の集会所で、子どもたちが e ラーニングの授業に参加しています

スーダン、2024年6月25日

© UNICEF/UNI599906/Elfatih





ユニセフの声：
ユース・アドボケイト（若者たちの代弁者）

「私は、すべての女の子が教育を受け、夢見る力を持ち、自分の可能性を最大限に発揮できる未来を描いています。私たちはそれぞれのかたちで、それぞれの人生のヒロインなのです。未来の課題に立ち向かう準備はできています。でも、皆さんの支えなしには、それを実現することはできません」

トゥポキグウェさん（16歳、タンザニア連合共和国）

© UNICEF/UNI731335/Znidarcic

Tupokigwe



政策提言、就学を促す支援制度、インターネットアクセス格差の是正戦略を通じて、ユニセフは社会的に取り残された子どもや若者、とりわけ女の子や障がいのある子どもに公平な就学機会を広げています。

2024年、ユニセフは142カ国で目標分野2の活動を実施し、総支出は16億米ドルに上りました。そのうち9億2,200万米ドルは人道危機の状況下での教育機会の確保や、教育制度の変革、レジリエンス（回復力）強化に充てられました。

すべての子どもが 暴力や搾取から守られること

主要な成果

- 暴力を受けた620万人の子どもたちが、110カ国において、医療、社会福祉サービス、法的支援、そして警察などの法執行機関による保護を受けました。これは2023年から36%の増加となります。
- 19カ国で約75万9,000人の女の子や女性が、女性器切除（FGM）から守るために予防・保護の支援を受けました。50カ国で約1,070万人の思春期の女の子が、児童婚に対処するための予防やケアの支援を受けました。
- 119カ国では、子どもへの性的虐待や搾取、オンライン上の暴力から守るために、法制度や政策の整備を進める取り組みを支援しました。
- ユニセフは、初の「子どもに対する暴力根絶のための世界閣僚会議」をパートナーとともに開催し、その結果、113の国の政府から子どもへの暴力をなくすための政策や資金を見直す約束を新たに取り付けました。

1989年の「子どもの権利条約」採択以来、目覚ましい進展が見られたものの、子どもの保護に関連するSDGsの多くは、依然として達成の見通しが立っていない状況です。児童婚や女性器切除（FGM）の件数はともに低下したものの、これらの有害な慣行を根絶するには不十分です。子どもへの暴力は依然として広く存在しており、家庭内では3人に2人が頻繁に体罰を受けています。2024年には、15～19歳の思春期の女の子の6人に1人が夫やパートナーから身体的または性的暴力を受け、またおよそ4人に1人の子どもが身近なパートナーによる暴力を受けた母親とともに生活していることが確認されました。

イサトゥ・サネさん（15歳）は、
クワイネラ中等学校で児童婚について話しています

ガンビア、2024年2月12日

© UNICEF/UNI583217/Prinsloo





父親に連れられ、マットレスに乗って家に帰る女の子。70年ぶりにベトナムを襲った最強の台風ヤギの被害を受けたホアンキエム地区にて

ベトナム、2024年9月11日
© UNICEF/UNI642519/Nong Viet Linh



政情不安にある国や紛争の影響を受ける国で暮らす子ども、移動を余儀なくされている子ども、家族の保護を受けられない子ども、そして罪を犯したとされる子どもたちは、暴力や搾取、育児放棄などの危険にさらされる可能性が特に高くなっています。

2024年、ユニセフは子どもを保護するための制度を強化する取り組みを引き続き推進しました。人道支援の場面でも開発支援の場面でも、すべての子どもを守ることを目指した、包括的で総合的な戦略です。

この目標分野への資金が減少する中でも、ユニセフは157カ国で子どもを守るために活動を続けました。2024年、目標分野3の支出総額は9億3,000万米ドルで、そのうち人道支援には4億5,000万米ドルが充てられました。

目標分野4

すべての子どもが 安全で衛生的な環境で 暮らすこと

主要な成果

▶ 1,800万人以上が基本的な衛生施設を、3,300万人以上が安全な水を、2,100万人以上が基本的な衛生サービスを利用しました。

▶ 人道危機下での水と衛生サービスを通じて、30カ国以上で4,100万人が支援を受けました。

▶ 約9,000の学校と約4,000の医療施設で、基本的な水と衛生サービス

の提供が進みました。また、ユニセフの取り組みにより、約1,200万人の女性と思春期の女の子が、月経中の健康や衛生面で安心して過ごすための支援を受けました。

▶ ユニセフは、66カ国の医療施設で再生可能エネルギーを導入し、子どもたちが安心して電力を使える環境づくりを進めました。あわせて、670万人が気候変動の影響を受けに

くい安全な給水システムを、300万人が同じく気候変動の影響を受けにくい衛生施設を利用しました。

▶ 「グリーン・ライジング」の取り組みを通じて、30カ国約1,100万人の若者が1,900万本の植樹を行い、6億リットルの水を節約し、7万5,000キログラムを超えるごみをリサイクルしました。



ユニセフの声：
ユース・アドボケイト
(若者たちの代弁者)

「みんなのためになることを実現するためには、みんなの協力が必要です。自分のことだけを考えるのではなく、力を合わせて取り組まなければなりません。地球の環境はひとつしかありません。だからこそ、守っていかなければならないのです」

マリアさん（15歳・バルバドス）

2024年9月23日、

ニューヨークのユニセフ本部にて

© UNICEF/UNI649793/Znidarcic





8歳のアフメドくんは冷たい水をぐくりと飲み、暑さをしのぎました。気温47°Cの猛暑の日、パンジャブ州ファイサラバードにて

パキスタン、2024年5月28日

© UNICEF/UNI585292/Ahmed



2015年から2024年にかけて、安全に管理された飲み水を利用できる人の割合は69%から77%に増えました。基本的な飲み水（供給サービス）を含む安全に管理された衛生施設を利用できる人の割合も49%から63%に上昇し、石けんと水での手洗いが可能な基本的な手洗い設備を利用できる人も67%から75%に増加しました。

それでもなお、世界では22億人が安全に管理された飲み水を利用できず、34億人が安全に管理された衛生施設を持たず、20億人が基本的な衛生サービスを利用できません。その結果、子どもたちは病気になりやすく、女性や女の子たちは水汲みのために長時間、重い労働を強いられています。

紛争や感染症の流行、経済危機、気候変動など、さまざまな課題が重なり合い、水と衛生分野のSDGs達成に向けた前進を妨げています。

ユニセフは、特に弱い立場にある人々への支援を確実に行うため、安全な水や衛生サービス提供の確保と仕組みの整備を進め、水や衛生サービスの直接支援で大きな成果をあげました。

ユニセフは「持続可能性と気候変動アクションプラン（2023-2030）」に沿って、子どもたちを取り巻く社会環境が気候変動や災害に強いものになるよう支援を拡大しました。対象国は2023年の68カ国から2024年には119カ国へと増え、事業の実施や調査、政策づくり、政策提言、政府の予算編成など、幅広い取り組みに持続可能性と気候変動への対応を組み込んでいます。

69カ国と協力し、環境や防災に関する政策を改訂しました。これにより、子どもに配慮した防災活動が社会のさまざまな分野でより適切に取り入れられるようになっています。

2024年、ユニセフは154カ国で目標分野4に取り組みました。総支出は10億米ドルを超え、そのうち5億米ドルは人道危機下での水と衛生の支援に充てられました。

すべての子どもが人生において 公平な機会を得ること

主要な成果

- 開発支援と人道支援の両分野をあわせて、1億200万世帯以上にユニセフ支援による現金給付を届けました。
- 91カ国では、子どもへの投資を拡充・改善するために社会分野の予算強化を後押ししました。これは2023年の84カ国から増え、目標の69カ国を大きく上回りました。
- 測定や分析、政策提言を通じて、43カ国で子どもの貧困削減に向けた政策やプログラムづくりを後押ししました。これは2021年の32カ国から増加しています。
- 障がいのある子どもを含めた社会的保護の実施は77カ国で支援し、2023年の67カ国から増加しました。
- さらに18カ国で、都市部、スラム、非公式居住地における子どもの健やかな成長を妨げる構造的な障壁に対応するため、子どもに配慮した都市政策や計画基準の改善を進めました。これは2023年の15カ国から増加しています。

子どもの貧困削減の取り組みは近年鈍化しており、世界では約10億人の子どもが多次元貧困の中で暮らしています。世界の人々の半数以上が現在、少なくともひとつの社会的保護を受けている一方で、子どもの場合は、何らかの支援を受けているのはわずか4人に1人にとどまっています。多くの国では、増え続ける債務返済により、社会福祉分野への支出が制約を受けています。



ユニセフの声： ユース・アドボケイト (若者たちの代弁者)

「貧困に立ち向かうと決意することは、みんなにとってより良く、公平な世界へ大きな一歩を踏み出すことだと思います。
どんな場所で生まれた子どもでも、大きな夢を描くチャンスを持つべきです」

ロヴァくん
(14歳、マダガスカル、2024年3月6日)

© UNICEF/UNI586562/Andriantsoarana





11歳のヴァンコ・クリステラ・イラコゼさんは、ユニセフから提供された松葉づえを使って、自宅の敷地内を歩けるようになりました

ルワンダ、2024年12月4日

© UNICEF/UNI725203/Iyakaremye



2024年、ユニセフの取り組みにより、持続可能で包摶的、かつ緊急時にも対応できる社会的保護制度への投資が大きく進みました。また、公的機関や民間部門が、子どもに配慮した政策に取り組む流れを後押ししました。

各国政府と協力し、貧困の実態を測る取り組みや、社会的保護への資金拡充、現金給付をほかのサービスと組み合わせて届ける仕組みづくりを進めています。

2024年、ユニセフは155カ国で目標分野5に取り組み、総額8億2,000万米ドルを支出しました。そのうち5億7,400万米ドルは人道支援活動に充てられました。ユニセフ支援による現金給付は2024年にさらに拡大し、脆弱な状況や人道危機の中で暮らす360万世帯を支えました。

人道支援

紛争や災害が起きると、子どもたちが最初に被害を受け、最も大きな苦しみを背負うことになります。緊急時や人道支援の現場において、子どもたちは病気や栄養不良、暴力といったリスクにさらされやすい状況にあります。

ユニセフは、こうした子どもたちとその家族に寄り添い、命を守るために不可欠な支援を届け、あらゆる場所ですべての子どもの権利を守ることを大切にしています。

また、人道支援と開発支援のつながりを強めることにも力を注いでいます。私たちは、緊急事態が起きる前から、その最中、さらにその後も各国で活動を続け、必要な支援が途切れないよう取り組んでいます。例えば、水と衛生のシステムを修復・改善することで、支援を必要とする世帯に対し、危機の最中にも長期的にも役立てることができます。

しかし、人道支援のための資金はますます限られてきています。従来の支援国による援助予算の削減に加え、ユニセフや国連機関が活用できる柔軟な資金も減少し続けているのです。国際社会の対立や経済の分断が、子どもの権利にますます深刻な脅威をもたらしています。暴力的な紛争や気候変動が、人道支援の必要性を継続的に高めているのです。

2024年、ユニセフは世界的な現場ネットワークと専門性を備えたスタッフ、パートナーの協力を活用し、人道危機対応を含む子ども関連のSDGsの達成に向けて取り組みました。

- ・パートナーと協力し、104カ国で発生した448件の緊急事態に對して人道支援を実施しました。
- ・ユニセフは、各国が地域主導で人道対応を進められるよう、内部の方針や手順を見直し、よりわかりやすくしました。その結果、現地

の団体や関係者との協力が、より効果的かつ持続可能なものへと進化しています。

- ・人道危機下において、ユニセフは4,040万人以上に子どもの保護サービスを提供しました。また、紛争や避難、自然災害によって家族と離ればなれになった12万4,000人以上の子どもに対し、一時的な保護や里親制度などの代替的な養護を提供するとともに、家族と再び暮らせるよう支援を行いました。さらに、武装勢力と関わりを持っていた1万6,482人を超える子どもに保護や社会復帰の支援を実施するとともに、地雷やその他の爆発性兵器の影響を受ける750万人以上の子どもに対しては、被害を防ぐための教育や安全対策、そして被害を受けた子どもへの支援を行いました。



 **ユニセフの声：**
ユース・アドボケイト
(若者たちの代弁者)

「紛争は大人によって引き起こされるのですが、その最初の犠牲者となるのは子どもたちです」

**アドニスさん（16歳、
コンゴ民主共和国、2024年3月25日）**
© UNICEF/UNI550564/Ntabala

2

変革戦略

変革を実現するためのアドボカシー（政策提言）と広報活動

子どものためのアドボカシー（政策提言）と広報活動は、その形がどんなに多様であっても、ユニセフの使命の根幹をなすものです。こうした活動を通じて、各国政府が子どもの権利を実現するよう働きかけています。

2024年、ユニセフはアドボカシー（政策提言）と広報活動を通じて、以下のような成果を上げました。

- 90カ国において、ワクチンの価格を抑え、より多くの人が公平に摂取できるよう支援しました。
- 110カ国において、学習上の課題に取り組みました。
- 60カ国において、子どもや若者に対するメンタルヘルス支援を強化しました。
- 90カ国において、清潔な水へのアクセスを拡大し、環境悪化および気候変動への対処を進めました。
- 110カ国において、社会的保護を推進しました。

アドボカシーの取り組みにより、ポリオ根絶に向けた21件の政府の約束が実現し、「世界ポリオデー」などのキャンペーンを通じて市民の支持を広く集めました。「Humanly Possible（人類の力をもって可能なこと）」キャンペーンでは、定期予防接種の支援としてGaviワクチンアライアンスに30億米ドルの寄付が集まりました。さらに、子宮頸がん撲滅フォーラムではHPVワクチンのために6億米ドルが調達され、世界全体でのHPVワクチン接種率の改善がすでに実現しています。

栄養分野でのアドボカシー活動は、子ども栄養基金を通じて大きく前進し、数百万ドル規模の資金拠出が確約されました。その中には、複数の微量栄養素のサプリメントにあてられる3,440万米ドルも含まれています。

気候変動に関するアドボカシー活動により、子どもの権利と声が世界的な気候議論の中心に据えられました。COP29では、子どもに配慮した文言が最終文書に盛り込まれるという新たな節目を達成しました。COP29におけるユニセフの働きかけにより、気候変動への適応や資金の世界目標に子どもに関する指標が加わりました。さらに、気候交渉において子どもの権利を推進する友好国グループも立ち上げられました。また、66カ国が「子ども、若者、気候変動対策に関する宣言」を支持しました。

36カ国で、子どもの権利を守るために、企業のあり方に関する法律や基準が見直されました。ユニセフのアドボカシー活動により、EUの企業持続可能性デューディジェンス指令（CSDDD）において子どもの権利の保護が強化され、子どもの権利条約への明示的な言及が盛り込まれました。



セリーヌさん（13歳、中央）は8年生（日本の中学2年生に相当）で、ヨルダン唯一の沿岸都市アカバに住んでいます。彼女は学校のユニセフ支援「気候アクションクラブ」のメンバーです。クラブの取り組みの一環として、生徒たちは海岸の清掃活動に参加しています

ヨルダン、2024年1月

© UNICEF/UNI574356/Al-Safadi



2024年2月、ユニセフは英国外務国際開発省（UK-FCDO）の支援を受け、18台のトラックによる車列を編成し、数千世帯の避難民とその子どもたちに不可欠な物資を届けました

パレスチナ ラファ、2024年2月

© UNICEF/UNI599906/Elfatih

不可欠な物資を支えるグローバルネットワーク

2024年、ユニセフは160の国と地域で、総額56億米ドル相当の物資やサービスを子どもたちのために調達しました。その中には28億回分のワクチンが含まれ、世界の5歳未満の子どものほぼ半数に届けられる規模に相当します。人道支援活動の一環として、ユニセフは2024年に68の国と地域で総額12億米ドル相当の緊急物資を提供しました。

ユニセフは世界に広がる供給ネットワークを通じて、人道支援や開発の現場で、子どもたちに欠かせない物資やサービスを調整・調達・提供しています。これには、命を守るワクチン、保健・栄養関連の物資、水と衛生用品、教育教材、建設サービスなどが含まれます。

2024年、ユニセフは183カ国にわたる12,154の供給業者から調達を行いました。そのうち、プログラム実施国に登録された供給業者からの調達は、全体の57%を占めました。こうした現地調達の拡大は、持続可能性の強化、各国のシステムの強化、そして子どもたちへのより大きな成果につなげるというユニセフの姿勢を反映しています。

若者の参加を推進する

若者のために活動することは、若者とともに活動することを意味します。ユニセフは、190を超える国と地域の現場チームと共に、そしてオンライン上でも、グローバルな課題に取り組む若者を、世界の他のいかなる子どもの権利団体よりも多く巻き込んでいます。

2024年には、67カ国で青少年や若者の参加を支える国家制度を後押ししました（2021年の22か国から増加）。青少年の参画を促進し、彼らが政策形成に参加できるような制度や対話の場を活用できるよ

う支援しました。99のユニセフ事務所が各国でどんな支援を優先するかを考える際に、若者たちの意見を聞きました。これは目標としていた60事務所を大きく上回り、プログラムが若者のニーズに沿うようにするための取り組みです。

また、ユニセフは「世界の女の子リーダー助言グループ（Global Girl Leaders Advisory Group）」を立ち上げ、思春期の女の子に関する活動の優先事項をともに検討しました。2023年に発足した同グループはすでに大きな進展を遂げており、2024年には、各国でユニセフの活動に関わる思春期の女の子や若い女性の新たなメンバーを

迎え入れました。このグループは、世界規模の世論調査の企画・実施を主導し、50万人を超える子どもや若者が女の子の権利に関する政策優先事項について声を上げました。

ユニセフの若者参加のためのデジタルツール「U-Report」は105の枠組みに拡大し、74カ国で190万人のユー・レポーターたちが協力して活動し、意識を高め変化を求める声を届けました。



ユニセフの声： ユース・アドボケイト (若者たちの代弁者)

「人々に知ってほしいのは、インクルージョン（包摶）とはたんなる言葉ではなく実践すべき大切な考え方であるということです。どんな背景を持っていても、どんな困難に直面していても、すべての子どもが平等に輝くチャンスを得られる世界であるべきです。すべての子どもには、制限なく自分の夢を追いかける機会が与えられるべきです」

ガウランシさん（17歳、インド）

© UNICEF/UNI570268/Vishwanathan

若者たちの代弁者として活躍する（前列左から）カルティクさん、ガウランシさん、ナヒドさん、ヴィニーシャさんとユニセフ職員。デリーにて

インド、2024年5月3日

© UNICEF/UNI570268/Vishwanathan

地域社会の関与と社会・行動変容

ユニセフは2024年、99カ国で調査活動を主導し、人々の行動や考え方、社会的な背景が支援サービスの利用や日常の習慣にどう影響しているかを把握しました。また、113カ国で研修を実施し、政府関係者、地域社会の担い手、大学などの教育機関がより効果的に活動できるよう能力強化に努めました。

さらに、障がいのある子どもとその家族が直面する障壁の解消に向け、115カ国で社会・行動変容の取り組みを支援しました。こうした活動には、2024年に「子どもたちの人道支援 (Humanitarian Action for Children : HAC)」の資金要請を展開した40カ国のうち28カ国（ソマリアやイエメンを含む）における、障がいに配慮した人道支援の強化も含まれます。

ジェンダー平等の実現

女の子と男の子に平等な権利を保障する社会は、すべての人に利益をもたらします。しかし、思春期の女の子は、心身両面に悪影響を及ぼす差別的な慣行にさらされることが少なくありません。世界的に見ると、思春期後期までに教育・就労・職業訓練のいずれにも参加していない女の子は男の子の約2倍にのぼります。

2024年には、緊急時におけるジェンダーに基づく暴力 (GBV)への対応、防止、リスク軽減プログラムを79カ国で展開し、1,760万人以上に支援を届けました（2021年の1,390万人から増加）。また、暴力 (GBV) のリスク軽減に関する最低基準の導入でも大きな前進があり、43%の国で完全に実施されました。さらに、安心して使えるオンライン相談窓口「Laaha」を通じて、50万人を超える女性と女の子が、性と生殖に関する健康や暴力 (GBV)への対応についての情報や支援を受けられるようになりました。

2024年には、129カ国の事務所のうち90%が、子どもの権利に関するジェンダー平等を推進する方針やプログラムに資金を提供しており、2021年の66%から増加しました。

ユニセフはまた、86カ国で、ジェンダーに基づく役割や規範、慣行に取り組む大規模プログラムを支援しました。

加えて、74カ国において、現場の実務者を対象としたジェンダー平等に関する大規模な研修プログラムを実施し、2021年の50カ国から拡大しました。

イノベーションの活用

ユニセフは、すべての子どもたちに新たな可能性を届けるため、イノベーション（革新的な取り組み）の力を活用しました。

2024年には、教育、子どもの保護、社会政策、資金調達の分野でデジタル変革を進め、デジタルを活用するスキルの強化や安全の確保、AIの導入を通じて、事業のスピードと質を高めました。

特に人道支援の現場では、技術革新が事業運営や対応の迅速化に大きく貢献しました。2014年以降、ユニセフは138カ国で、子どもたちの暮らしを良くするための新しい取り組み238件を後押ししてきました。

2024年には、「5つの視点から取り組みを見きわめる方法 (5Dフレームワーク)」を活用し、子どもたちに大きな成果をもたらす革新的な解決策を見つけ、検証し、広げる支援をおこないました。この方法では、革新性、仕組みの持続性、成果の大きさ、広げやすさ、そしてリスクの有無という5つの観点から取り組みを評価することで、本当に効果的で長く続けられるものののみが推進されるようにしています。

ユニセフは、新興国の新しいアイデアを持つ人々と連携し、子どもたちのためになる新たな解決策を考え、試す取り組みを進めています。この「ベンチャー支援制度」を通じて、これまでに87カ国で153の取り組みを支え、1億2,860万人以上の人々に届けることができました。

3

財政

ユニセフの財政 2024年

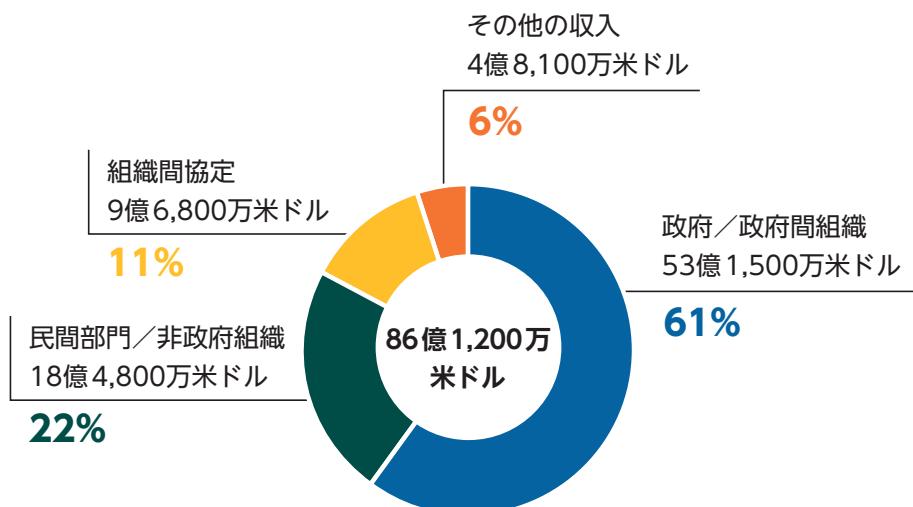
支援者の皆さまのご協力は、すでに世界を変えました。しかし今は、後退すべき時ではありません。

各国ユニセフ協会（国内委員会）を通じ、2024年に世界中の子どもたちのためにご協力をいただいた皆さま、とりわけ通常募金（通常予算）、指定募金（指定予算）にご協力いただいた皆さまに、深く御礼申し上げます。世界が団結し、通常募金や指定募金といった柔軟かつ持続的な資金にご協力いただくことで、子どもたちの未来に驚くべき成果をもたらすことができることは、今日までの子どもたちの状況の進展が証明しています。

しかし、長きにわたる取り組みの結果であるこうした進展は今、国際援助資金の前例のない削減によって脅かされています。何百万もの子どもの命を守るために、私たちは結束しなければなりません。ユニセフは、国連加盟国に向けて、資金協力協定の約束を果たすよう、またあらゆるご支援者さまに向けて、ご協力全体の中でも、とりわけ支援活動の根幹を支える通常募金へのご協力を優先していただくよう呼びかけています。

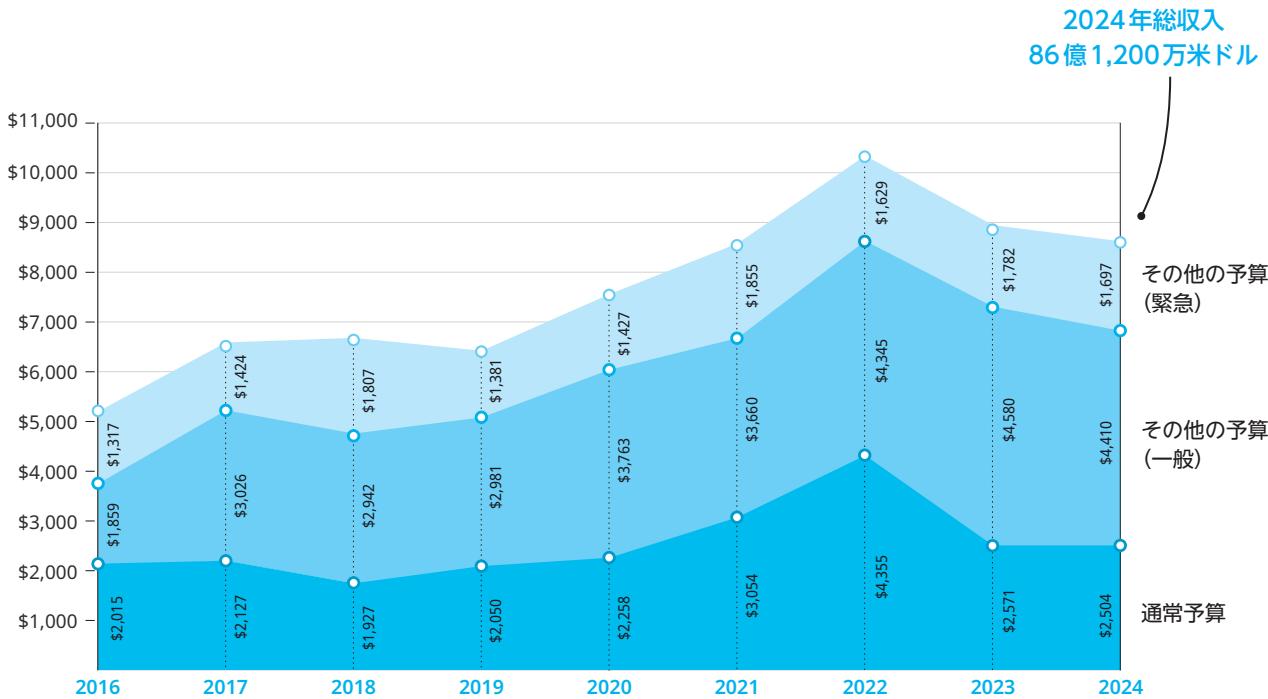
ユニセフの収入内訳 2024年

（単位：米ドル）



ユニセフの収入内訳 2016-2024

(単位: 百万米ドル)



ユニセフの総支出 2024年

(百万米ドル)

この報告書では、ユニセフが業務およびプログラムの実施において発生した「支出」と「費用」の両方について情報を提示しています。

「費用」は発生主義に基づいて表示されており、運営費およびプログラム関連費用を反映しています。

「支出」は修正現金主義に基づいて表示されており、資本支出を含む、予算配分された資源の使用を示しています。

2024年の
ユニセフ支出のうち、
91%が
開発支援事業*に
充てられました。

支出区分	支出
開発支援事業費	\$7,381
プログラム費	\$7,178
開発効果費	\$203
管理・運営費	\$407
国連の開発事業に関わる連携調整費	\$10
独立監査・保証費	\$29
特別支出 (設備投資含む)	\$33
民間資金調達・連携事業費	\$239
総支出	\$8,099

*開発支援事業費は、「プログラム費」と「開発効果費」を合わせた支出割合です。

「プログラム費」は、国・地域・グローバルレベルで子どもたちに直接届けられるプログラムへの支出、「開発効果費」は、ユニセフが高品質なプログラムを実施するための技術的専門性や成果を高める施策に関連する支出です。

ユニセフ予算への拠出 上位30組織 2024年

(単位:百万米ドル)

組織名	通常予算	その他の予算		総計
		一般	緊急	
米国	\$137	\$114	\$867	\$1,118
ドイツ	\$66	\$503	\$110	\$679
欧州委員会	-	\$302	\$248	\$550
世界銀行	-	\$439	-	\$439
英国	\$20	\$82	\$310	\$413
米国ユニセフ協会	\$15	\$230	\$44	\$288
欧州投資銀行	-	\$248	-	\$248
教育のためのグローバル・パートナーシップ	-	\$221	-	\$221
GAVI アライアンス (ワクチンと予防接種のための世界同盟)	-	\$162	\$23	\$185
スウェーデン	\$57	\$50	\$76	\$183
国際連合人道問題調整事務所	-	-	\$174	\$174
日本ユニセフ協会	\$145	\$14	\$15	\$173
オランダ	\$47	\$90	\$34	\$171
韓国	\$15	\$39	\$88	\$142
ノルウェー	\$45	\$38	\$52	\$136
ドイツユニセフ協会	\$69	\$26	\$35	\$130
英国ユニセフ協会	\$33	\$57	\$24	\$114
日本	\$11	\$17	\$81	\$110
カナダ	\$11	\$66	\$27	\$104
韓国ユニセフ協会	\$85	\$8	\$6	\$99
アジア開発銀行	-	\$98	-	\$98
世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (グローバルファンド)	-	\$91	\$3	\$94
デンマーク	\$15	\$43	\$30	\$88
スペインユニセフ協会	\$66	\$10	\$8	\$84
国連マルチ・パートナー信託基金	\$0	\$71	\$10	\$81
カナダユニセフ協会	\$13	\$27	\$41	\$80
フランスユニセフ協会	\$58	\$10	\$8	\$75
オランダユニセフ協会	\$48	\$5	\$7	\$61
フランス	\$2	\$40	\$15	\$58
国連合同計画	-	\$55	-	\$56

ユニセフ通常予算への 拠出 上位15組織 2024年

(単位:百万米ドル)

組織名	総計
日本ユニセフ協会	145
米国	137
韓国ユニセフ協会	84.6
ドイツユニセフ協会	69.4
スペインユニセフ協会	65.8
ドイツ	65.6
フランスユニセフ協会	57.9
スウェーデン	56.5
オランダユニセフ協会	48.4
オランダ	47.1
ノルウェー	45.5
イタリアユニセフ協会	38.4
スウェーデンユニセフ協会	33.7
英国ユニセフ協会	33.1
スイス	25.0



2024年に10万米ドル以上の規模で協力のあった個人・企業・団体等

個人・団体等

A/S D/S Orient's Fond	Fundação José Luiz Egydio Setubal
Abdulla Al Abdulla	Fundación Carlos Slim
Abram and Ray Kaplan Foundation	Fundación La Margarita Zemborain – Grondona
Advanced Remarketing Services	G. Barrie Landry, Landry Family Foundation
Afeyan Foundation	Gates Foundation
Al Ghurair	Gates Philanthropy Partners
Al Waleed Philanthropies	George and Danielle Boutros
Alvin Sandefur	George Newell
Anna Chmielowiec and Marcin Zukowski	Gloria Principe and John O'Farrell
Anthony & L. Britt Giuffre Family Fund	Grodman Family Foundation
Applied Medical	Hannah Nguyen
Arnie J Charbonneau Foundation	Harold A. und Ingeborg L. Hartog-Stiftung
Autism Speaks	Helmsley Charitable Trust
Beijing Xingyu Fortune Philanthropy	Hilary Brinker
Betty Wold Johnson Foundation	IFANCA
Brenda and Stéphane Bancel	IKEA Foundation
Brian Patterson (White Star Education Foundation)	Instituto Alok
Bruce and Jina Veaco Foundation	International Chamber of Commerce, Bangladesh
Bruce and Lori Laitman Rosenblum	Islamic Relief Australia
Canadahelps	Isle of Man International Development Committee
Carol J. Hamilton	J.T. Tai & Co. Foundation, Inc.
Charles and Eleanor Pollnow	Jacobs Foundation
Chellaram Foundation Limited Hong Kong	認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会
Christine M.J. Oliver	一般社団法人 日本地域コンテンツ振興協会
Colin and Sue Stone	Jennie K. Scaife Charitable Foundation
Crown Prince Court	Jennifer Gates Nassar and Nayel Nassar
Cygnus Management	Jersey Overseas Aid
Deborah Hart and Bill Goodykoontz	Jim Craigie and Sally Brophy
DELVE	Jung Sik Gong
Dong Young Kim	Kaizers Orchestra
Douglas and Donna Dunn	Karen Olga Arsaeasdottir
Dr. Elliott Utrecht	Karl Kahane Foundation
Dr. Emily Watts	Kathi P. Seifert
Education Above All (EAA) Foundation's programmes EAC, ROTA and Silatech	Kerry and Brendan Swords
Edward R. Bazinet Charitable Foundation	Key Club International
Eleanor Robbins	Khachaturian Foundation
Eleva Foundation	Khalil Abou Jaoude
Elías Sacal and Family	Kimberly J. True
Eric and Kirsty Bendahan	Kirk Humanitarian
Erica Berthou & Nazmi Oztanir	Kiwanis International
Eun Kwan Park	KJS Family Foundation
Eva Ahlström Foundation	Klaus und Gertrud Conrad Stiftung
Evelyn S. and K.E. Barrett Foundation	Klaus-Friedrich-Stiftung
Federation Islamic Association of New Zealand (FIANZ)	Kusinkapital
Fondation Botnar	Kyung Seok Choi
Fondation Boucher-Lambert	Lichts in Dunkel
Fondazione Rosmarino	Lind Foundation
Fondo Unido-United Way México	Little Company of Mary
Frank and Wendy Serrino	Love Meyer Family Foundation
Freudenberg-Gruppe	MANA Nutrition
	Maria Ahlström-Bondestam

Marianne Sundell	Simon and Dorothy Peyton Jones
Marie Louise Kirk	Siriwan Singhasiri and Kenneth Lin Foundation
Marty Weiner	So Jeong Yang
Maßvoll Stiftung	Squarepoint Foundation
Mastercard Foundation	Stefan Findel and Susan Cummings-Findel
Meena and Ron Flynn	Stelios Philanthropic Foundation
Megha and Aditya Mittal	Stephen Robertson
Mel Zwissler	Stephens Foundation
Melody Wilder Wilson and David Wilson	Steve and Margaret Eaton
Michel Khalaf	Stichting de Lichtboei
Minderoo Foundation	Stiftung Elena und Heinz Hasselberger
Mohammed Bin Rashed Al Maktoum Global Initiatives	Sudha Reddy
Moon Sae Lee	Tanoto Foundation
Morris Braun Foundation	Temasek Foundation
Mr. and Mrs. Cyrus W. Spurlino	The 72 Fund
Mr. and Mrs. Ewout Steenbergen	The Ajram Family Foundation
Mr. and Mrs. Hayford	The Alkek and Williams Foundation
Mr. and Mrs. Michael R. Eisenson	The Ambrogio Foundation
Mr. Anthony J. Dividio	The Arhant Social Foundation Inc.
Mr. Barrett M. Guthrie	The Charles Engelhard Foundation
Mr. Bernard Taylor, Sr.	The Child and Tree Fund
Mr. Krit Ratanarak	The Children's Investment Fund Foundation
Mr. Niti Osathanugrah and family	The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints
Mr. Robert J. Weltman	The Constance Travis Charitable Trust
河本剛様	The Dietz Family Fund
Ms. Claudia Taden	The Edwards Family
Ms. Julie Taymor	The Fairmount Foundation
Ms. Kaia Miller Goldstein and Mr. Jonathan Goldstein	The FirstLine Foundation
Ms. Marie Bednar	The Garrett Family Foundation
Ms. Mary Bunting	The Jireh Foundation
丹みつ様	The Light Foundation
Ms. Susan J. Holliday	The McCusker Charitable Foundation
Ms. Susan Littlefield and Mr. Martin F. Roper	The Mendelsohn Family Fund
Ms. Suzan Gordon	The Rahmatan Lil Alamin Foundation
National Cyber Security Forum	The Rossy Foundation
NCR Foundation	The Rotary Foundation of Rotary International
New Venture Fund	The Tom Mikuni and Minnie Obe Hirayama Charitable Fund
Nguyen Huong Lien	The Walker Family
NHH Aid	Thomas C. Bishop
Nicole and Andrew Hayek	TNT Family Foundation
OneFamily Foundation	Together for Girls
Otto Haas Charitable Trust	Trott Family Philanthropies
Paula and Thomas Barbour	UN Foundation
Peter Kim and Kathryn Spitzer Kim	UNFCU Foundation
Porticus	UNICEF Walk - Schools
Power of Nutrition	Vichai Srivaddhanaprabha Foundation
Qatalyst Partners	Víctor González Herrera and Family
Quantum Capital Group	ViiV Healthcare's Positive Action
Radiohjälpen	Walter E.D. Miller Charitable Fund
Reinhold und Heike Fleckenstein Stiftung	Wasan and Kasim Alfalahi
Riddell Family Charitable Foundation	Wellcome Trust
立正佼成会	World Assembly of Muslim Youth - WAMY
Rohini Nilekani	Yarbrough Family Foundation
Roots & Wings Foundation	York Bötzow Menschen in Not-Stiftung
Royal National Lifeboat Institute	ZeShan Foundation
Samer Shaja	Zhang Xiguang
Se Wook Jang	Zonta International
Sheikh Abdullah Al Nouri Charity Society	

企業

国際パートナーシップ

Accenture
Adyen
Amway
Arm
AstraZeneca
Baxter International Foundation
BIGHIT MUSIC
BMW Group
BNP Paribas Cardif
Brighton & Hove Albion Football Club
Capgemini
Chery Automobile
Chloé
Clarios Foundation
クレ・ド・ポー ボーテ
CRH
DP World
dsm-firmenich
DSV A/S
EA Sports
easyjet
Eli Lilly and Company
Eli Lilly and Company Foundation
Ericsson
Ernsting's family GmbH & Co. KG
Ethical Tea Partnership
Ferretti Group
Flexport.org
Fondation CMA CGM
Formula 1
Fundación Abertis
Google, Inc.
Grundfos Foundation
H&M Foundation
Haleon
Hallmark Marketing Company
Hapag-Lloyd AG
Hempel Foundation
Iberdrola
IHS Towers
Innovasjon Norge
Inter IKEA Group
Jo Malone London
Kimberly-Clark Corporation
Les Mills International
株式会社 LIXIL

Louis Vuitton Malletier
Marriott International
Max Factor
Meta
Michelin
Microsoft Corporation
Moncler
MSD
NELT Group
Nord Anglia Education
Novo Nordisk A/S
Novo Nordisk Foundation
OpenAI
Pandora A/S
Pinterest
Primark
Revolut
SAP SE
SEF (Saudi Esport Federation) - Gamers Without Borders
Siemens Healthineers AG
ソニーグループ株式会社
Spotify AB
Sylvamo
Telenor Group
The LEGO Foundation
The LEGO Group
TP (Teleperformance SE)
Video Games Europe
Würth Group
Xylem
Z Zurich Foundation
Zurich Insurance Group

国内パートナーシップ

Argentina
Payway S.A.U.
Takeda Argentina S.A.
Australia
Atlassian
Canva
Qantas Airways Limited
Austria
Magna International
Voestalpine AG
Belgium
Umicore
Brazil

Aegea
B3 Social
BRK Ambiental
FRAM Capital
Granado
Grupo Profarma
GSK Brasil
Instituto Claro
Instituto EDP
Instituto Equatorial
Marisa
Neoenergia
NIVEA
Odontoprev
Pfizer
Raia Drogasil
Roche
Takeda
Vale
WEG
Bulgaria
Happy LTD
Canada
Deciem
Lallemand Inc.
lululemon athletica inc.
Teck Resources Limited
China
Qingzhou Tanboer Garment Co.
Shenzhen Transsion Holdings Co.
Colombia
Banco de Bogotá
Banco de Occidente
Jeronimo Martins Colombia
Supertiendas Olimpica
Czechia
Notino, s.r.o.
Denmark
AS/DS Orient's Fond
Dagrofa
DBU - Dansk Boldspil Union
Knud Højgaards Fond
Saxo
Ecuador
DINERS CLUB DEL ECUADOR
Finland
Ahlström Collective Impact
Nokia Oyj
Rettig Oy Ab

France
Fonds de dotation bioMérieux
Fonds L'OCCITANE
Foundation S - The Sanofi Collective
Sucre et Denrées
VINCI Energies
Germany
ARAG SE
BASF Foundation / BASF SE
cosnova GmbH
Daimler Truck AG
EUROBAUSTOFF Handelsgesellschaft mbH & Co. KG
GARDENA GmbH
IKEA Deutschland GmbH & Co. KG
Postcode Lotterie DT gGmbH
Schäffler AG
Siemens Caring Hands e.V.
Stiftung Kinderförderung von Playmobil
United Internet for UNICEF Foundation
Greece
LIDL HELLAS
Hong Kong, China
Cathay Pacific Airways Limited
Doo Group
Indonesia
Prudence Foundation
Ireland
Aer Lingus
An Post
Italy
Fideuram Asset Management (Ireland), FAMI
Fondazione Generali – The Human Safety
Technogym
Japan
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
生活協同組合コープみらい
生活協同組合コープながの
生活協同組合コープこうべ
生活協同組合コープさっぽろ
コープデリ生活協同組合連合会
FNSチャリティキャンペーン（株式会社フジテレビジョンを含む フジネットワーク系列28局及びBSフジで構成）
伊藤ハム株式会社
日本生活協同組合連合会
サラヤ株式会社
株式会社セブン銀行
株式会社SL Creations
生活協同組合ユーコープ

Luxembourg

Aperam S.A.

Mexico

Banco Santander Mexico

Centro Nacional de Apoyo para Contingencias Epidemiológicas
y Desastres**Netherlands (Kingdom of the)**

Nationale Postcode Loterij

PF Concept

TUI Care Foundation

Norway

DNB ASA

Kiwi Norge AS

NBIM

Norsk Hydro

Pictura Gruppen AS

Visma AS

Pakistan

Haleon Pakistan Limited

Peru

Electro Dunas

Philippines

Cebu Air Inc.

Republic of Korea

Asiana Airlines

BGF Retail

Daewoo Engineering & Construction Co., Ltd.

Hyundai Motors

KAKAOBANK

Shinhan Card

SM Entertainment

Romania

JYSK România

Spain

Caixabank

Deloitte España

Fundación "la Caixa"

Goldberg Ediciones S.L.

Hoteles Amigos

Iberia

ICT Foxy

ING España

Orbea

Pymes Amigas

Sweden

Akelius Foundation

Gina Tricot AB

Pictura

Sandvik Coromant

Swedish Postcode Lottery

Switzerland

ALDI SUISSE AG

MSC Foundation

Thailand

BJC Big C Foundation

Central Group

Türkiye

Netflix Türkiye

Rönesans Holding

United Kingdom

BT Group

Clyde & Co

Keller Group

United States

American Airlines

Cencora

Cigna Foundation

Citi Foundation

Crocs, Inc.

Equinix Foundation

Global Impact

IMF

Intel

Johnson & Johnson

JPMorgan Chase & Co.

MetLife Foundation

Merck

Moloco

PayPal

Phoenix Tower International

S&P Global Foundation

SPS Commerce

Target Corporation

The UPS Foundation

The Walt Disney Company

The World Bank Group

Twilio.org

Vertex, Inc.

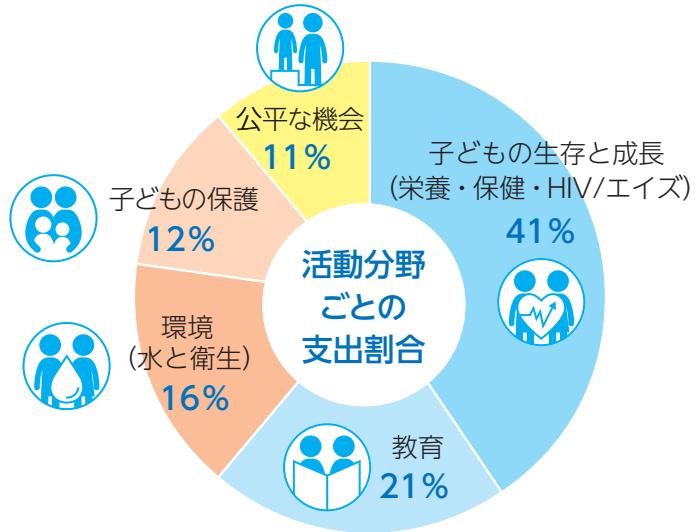
Visa Foundation

Viet Nam

Inter IKEA Systems B.V

ユニセフの支出

活動分野別支出 2024 年

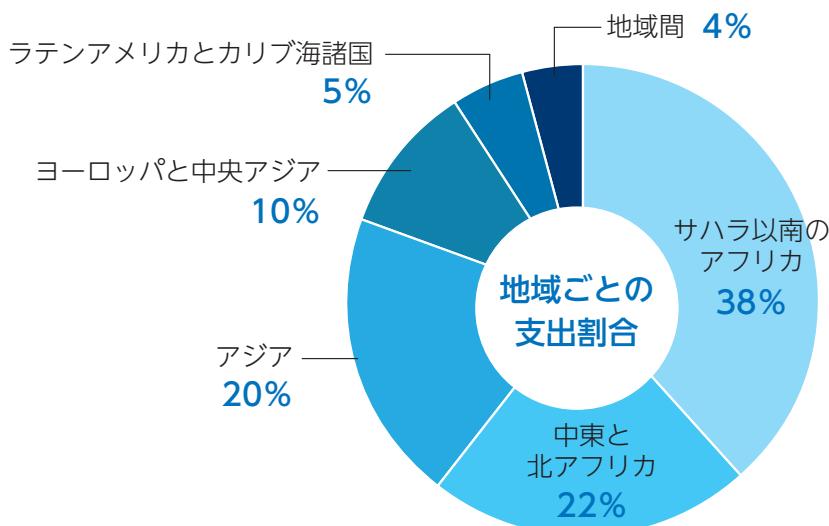


支出合計 78億100万米ドル

※割合は四捨五入しているため、合計が100%になりません

ユニセフの支出

地域別支出 2024 年



支出合計 78億100万米ドル

※割合は四捨五入しているため、合計が100%になりません

ユニセフ 活動の成果 2024

著：ユニセフ（国連児童基金）

www.unicef.org

訳・発行：公益財団法人 日本ユニセフ協会

〒108-8607

東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

電話：03-5789-2011（代表）

FAX：03-5789-2032

www.unicef.or.jp

本書は、ユニセフが作成した「UNICEF Annual Report 2024」を日本ユニセフ協会が翻訳・編集したものです。

転載をご希望の方は、日本ユニセフ協会までお問い合わせください。

どこにいようと
だれであろうと
一人ひとりに
かけがえのない子ども時代を
チャンスを
未来を。

それがユニセフの使命です。

助けが届かなかった子どもたち
置き去りにされていた子どもたち
隅に追いやられていた子どもたちへ
支援の手を伸ばす。

190の国と地域で
来る日も来る日も。

私たちはあきらめません
すべての子どもが権利を実現する
その日まで。

